

令和7年度

馬路小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 自ら学び続ける子どもを育成する。
- 互いに認め合い、話し合い、学びあえる授業を実践する。

校長

加藤 幸紀

学力向上推進員

中山 祐子

【各校の取組状況の把握について】

校内研修や教員からの報告等で、取組み状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○国語・算数の「知識・理解」の領域については一定の成果が見られ、単元テストでは概ねよい成績がとれる。 ●問題を読み取ったり、身につけた漢字などの知識を、事後の学習や課題に関連づけたり活用することに課題がある。	・各学年で習得する基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。 ・文章を正しく読み取ったり、身につけた知識・技能を生かして学習に取り組むことができる。 ・作文や日記の中で既習の漢字を使い、豊かな語彙が活用できる。	・ドリルやプリントを活用し、基礎的な漢字や計算スキルの定着、読解力向上のため、宿題や朝活で継続的に練習を行う。 ・タブレットを活用した反復学習の機会を設ける。 ・朝活で読書活動（新聞活用含む）に取り組み、読書カードでチェックして語彙力の向上につなげる。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分なりの気づきや考えを、素直な気持ちで相手に伝えたり、聞いたりすることができる。 ●他者の考えを聴き、考えを深めたり、判断することに課題がある。 ●考えを、順序立てて説明することに課題がある。	・会話や文から必要な情報を取り出して整理し、正確に理解できる。 ・友達の発表を聞いて、質問したり自分の考えを伝えることができる。 ・友達の発表と自分の考えを比較し、考えながら聞くことができる。	・ポイントになる語句や文に線を引いたり困むよう習慣づけ、問題文の意図を正確に読み取る力をつける。 ・児童との会話や作文・日記では、語句の言い換えを適宜指導し、豊かな表現方法を身につけさせる。 ・タブレットを活用し、学びや考えを文章表現し、共有する機会を設ける。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○方法や手順が決まっている学習は、課題を最後までやり遂げようとする意欲が見られる。 ●周囲の助力を最初から期待してしまい、自ら課題を見つけ、解決しようとすることに課題がある。	・自らのめあてをもち、解決方法を自分なりに考え、課題に粘り強く取り組むことができる。 ・家庭学習は各学年で目標としている時間（低学年10分・中学年30分・高学年60分）以上取り組む。	・端的でわかりやすい精選した指示を行ったり、現在の生活や学習を振り返る機会を定期的に設けたりして、児童の学びや経験から学習計画を立てることができるようにする。 ・国語辞典やタブレットを使って、常に課題追求ができるように準備しておく。			